

## Ⅶ 学社連携・融合

# 小学生の地域“いいところ探し”

福岡市横手公民館 主事 落合由美子

- 1 事業名 小学生の地域“いいところ探し”～ 横手の町ってなかなか～
- 2 目的 公民館が小学校と連携し、地域の教育力も活用しながら、子ども達に横手ならではの体験をさせ、地域のすばらしさを実感させることを目的としている。
- 3 協力団体 公民館サークル、地域諸団体、校区住民の方々
- 4 実施に至る経緯

福岡市は1小学校区に1つの公民館が設置されている。横手校区でも公民館のとなりに小学校があり、公民館と小学校とが連携協力しやすいように考えられている。横手公民館は開館して12年になるが、開館当初から小学校とは連携を図り、5年前からは特に力を入れ取り組んできた。

## 5 内容

### (1) 各学年の取組

- ① 3年生は、公民館見学！ まず社会科の学習で公民館の学習を行い、その学習を広げるために総合的な学習の時間へと移行する。開館当初からの小学校との連携で、3年生は公民館サークル体験から地域のいいところ探しにまで発展している。
- ② 4年生は、公民館を会場に実施されている、社会福祉協議会主催「高齢者向けふれあいサロン」の3世代交流事業に参加する。
- ③ 5年生は、授業で地球環境のことを学習し、公民館の環境講座にも参加する。
- ④ 6年生は、授業で室町文化の学習をするので、公民館で茶道・お花・着付け・絵手紙などの学習を地域の方の講師で習う。
- ⑤ 低学年や特別支援学級「青空」の子どもたち、留守家庭子ども会も様々な活動で公民館を利用している。

### (2) 『私たちの公民館・地域“いいところ探し”』（3年生）

今回は、多くの実践の中から3年生の取組『私たちの公民館・地域“いいところ探し”』を紹介する。

#### ① 公民館についての学習（私たちの公民館）

子ども達は新学期が始まるとまもなく、社会科で校区探検をするので、公民館を意識するよう、意図的に“公民館は何をすところだと思う？”と問いかけながら地域のかなめとしての公民館の役割を学習していく。

ア) 公民館はどんな人が、いつ、何のために使うのだろう。

イ) 公民館の中では、どんな人がどんな仕事をしているのだろう。

ウ) 公民館にある部屋や道具の使われ方を詳しく調べよう。等々

子ども達は公民館サークルの話をとっても興味深く聞いている。二回目からは、サークルの見学である。先生から公民館に「サークルに何人お願いします」という連絡が

入るので、公民館はそれぞれのサークルに見学をお願いをする。サークルに日程の調整をしてもらい、見学の時は必ず館長も同席する。どのサークルも自分達の練習はそっちのけでとても気持ちよく受け入れて頂くのでありがたい。高齢者の多いサークルは、子ども達が孫みたいだと喜んでおられ、たまには子ども達と一緒にというのもいいのかもしれない。

見学が終わったらそれぞれのサークルに子ども達からお礼状が届く。サークル生にとっては、これが嬉しい事である。子どもからのお礼状も代々先生方に受けつがれており、このことも今まで学校と地域・公民館の連携協力が続いている要因だと思う。

## ② 実際に地域へ出かけて行く子ども達（地域いいところ探し）

総合的な学習の時間では子どもたちは横手の町へ出かけていき、いいところ探しを始める。あらかじめ10ヶ所くらいを担当の先生が選び、それぞれのお話をさせていただく地域の方と連絡を取り、承諾してもらっている。（以前はお話をさせていただける方の情報も公民館が渡していたが、今では3年生を担当された先生から引継ぎをされているので、先生が手配をされている。）事前に先生・館長・主事3者で十分な打ち合わせをしている。

公民館（館長・主事）は町の事を何でも知っていると言うことで、子ども達は公民館にいろいろな事を聞きに来る。

- 宝満神社 清水さん     十日ずもう・観音様 軍嶋さんほか
- なかよしロード 村中さん     太鼓こころ 高鍋さんほか
- 那珂川 清水さん     カチカチ山祭り 川畑さん・伊藤さん
- にこにこ会 猪立山さん     元湯 安部さん
- 日切り地藏 江田さんほか

以上のように、子ども達は公民館で情報をもらい地域へ出かける。

調べ学習をした後には、地域でお世話になった町内会長、団体、地域のみなさんに声かけ、学習成果の発表会を行う。子ども達の発表をみなさんは目を細め聞き入っておられる。横手のことを調べた後の子ども達は、“横手に生まれてよかった” “こんなにいい所がある” “横手の町って大好き” など率直な気持ちをのべる。地域の人にとってはこの上ないうれしい言葉である。

子ども達はこれだけにとどまらず体験した事をマップにして公民館に届けてくれる。皆さんはそれを見てとても嬉しそうである。あらためて“やってあげてよかった！！” “子ども達からパワーを貰った” とうれしそうに話される。

## (3) その他の取組

① クラブ活動 小学校の“茶道クラブ”も公民館を利用し活動している。

② 児童会活動 小学校の児童会がプルタブ・キャップを「車椅子」・「ワクチン」のために集めているので、公民館の玄関先にポスターを貼り、容器を置いてあげている。児童会のメンバーが毎週金曜日に回収に来る。公民館は協力された方へ差し上げる心のこもったお礼状も預かっている。

③ 秋祭り 秋祭りをむかえると朝早くから横手名物「落合まんじゅう」を私とPTA役員・PTA子ども役員・先生方と一緒に学習室で作る。売り子は子ども役員である。

私がPTA役員をしていた頃からのことなのでもう14年になる。

④ もちつき大会 もちつき大会は地域あげて協力をする。打ち合わせの段階から話し合いに参加し段取りをする。横手では3年生がもみまき⇒4年生が田植え⇒5年生が稲刈り⇒6年生がもちつき・しめ縄作りというふうに学年を追って経験が出来るようになっていく。

⑤ 6年生の「しめ縄作り」 しめ縄作りの指導は、横手小学校開校2年目から実施している。自分たちが育てた稲（お米）のわらを使ってのしめ縄づくりは、なかなか経験できるものではない。

## 6 事業の成果 『子どもに元気があれば町は明るい』

### (1) 子どもと一緒に地域のことを考えたい

大人だけが子ども達の事を考えるのではなく、子どもと一緒に校区のことを考えたいというのは、とても素晴らしい事だ。実際子ども達は一生懸命に校区のことを考えている。町で会う人たちによく挨拶もする。(今4年生は横手の町は住みやすいですか？また困っている事はないですか？などのアンケートを取り勉強している。) こういった取組をする事により、自分の住んでいる町への愛着がわき、校区への関心がさらに深くなる。

### (2) 子どもボランティアが育つ

子ども達は、「心をつなぐ」「人と人をつなぐ」事の大切さ、喜びを知ることで地域ボランティアとしての意識を高めていく。授業と地域行事を両立させる事は大変だと思うが、学校と地域と公民館が連携を取りながら活動すると色々なことが出来る。子どもに元気があれば町は明るい！！色々な事を校区のみんなが協力し合いながら活動するというのはとても素晴らしい事だ。私たち地域の大人も子ども達から元気をもらっている。

### (3) 安心・安全で住みよいまちづくりを（校区防災訓練）

横手校区では毎年600人余りの地域の人が参加し防災訓練を実施している。小学生はもちろんのこと、中学生までもが部活動の生徒を中心にたくさん参加している。

## 7 まとめ

横手校区の取り組みは、最初から学社連携・融合を進めようとして今があるわけではないように思う。関係者がこれまで色々知恵を出し合い、協力できることを実行してきたことが結果としてそうなってきたのだと思う。力を入れ始めた当時の校長先生は、小学校開校当時の教頭であった事もあり、校区への思いが強く、地域との連携協力を大切にされ、「地域を学校に引き込みたい」、「自分達もどんどん地域に出て行こう」、「地域なくしては、学校はありえない」という考えだったので私たちもとてもやりがいがあった。そして現在までその思いが先生方に脈々と引き継がれてきていると確信している。また、代々のPTAがとても協力的に頑張ってくれて引き継いでくれている事、関係者が常に連絡を取り合っている事、それらがうまくかみ合うことで学社連携がうまく進んできている。

811-1311 福岡市南区横手4丁目24-9 横手公民館

TEL092-572-5661 FAX092-572-5662

メールアドレス yokote141@jcom.home.ne.jp